

## (2) ボランティア参加者の意識

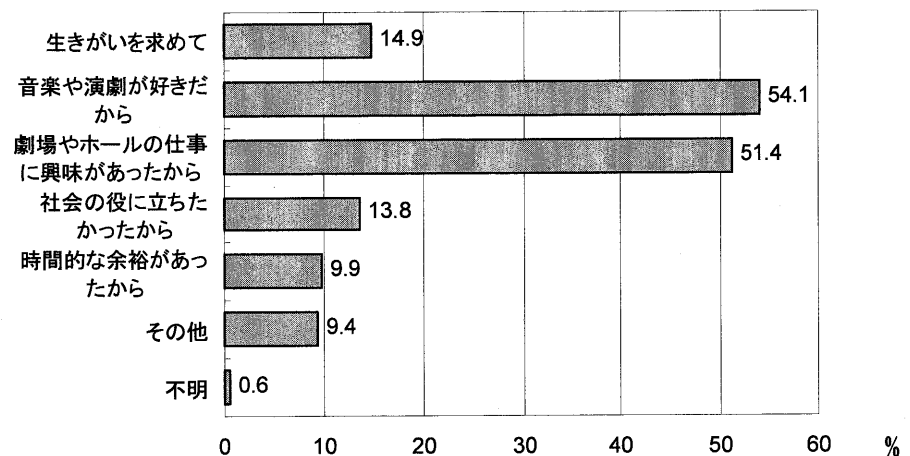
次に、ボランティア活動の実態を参加者側の立場から見てみたい。

### ① 参加の動機

ボランティアに参加した動機としては、「音楽や演劇が好きだから」(54.1%)、「劇場やホールの仕事に興味があったから」(51.4%)が上位を占め、一般的なボランティア活動の動機としてみられる「生きがいを求めて」や「社会の役に立ちたかったから」などの理由は10数%に過ぎない。

同様の傾向が美術館ボランティア\*<sup>8</sup>にも見られ、いわゆる“社会奉仕的”なものではなく“個人の興味関心の充足”的な部分が動機づけにつながっている点は、「文化ボランティア」の特徴と言えよう。

■ 図表 I-14 ボランティア活動を始めた動機



インタビュー調査でも、ボランティアへの参加にはさまざまな理由が聞かれたが、「もともと芝居に興味があった」、「昔、劇団にはいっていて、転居などにより継続する機会がなかった」、あるいは「現在もダンスをやっている」など、個人的な興味・関心による答えが最も多かった。実際、芸術関係の仕事に就きたいと思っても雇用の機会は限られているため、何らかの方法で劇場・ホールと関わりを持ちたい、という声もあった。

また、学校や会社など限定された社会でなく、「それ以外の人的ネットワークを拡大したかった」という意見も聞かれた。

さらに、「能登演劇堂振興協会」や「武生国際音楽祭推進会議」のように、地元団体の代表が集まってボランティア組織の基盤ができている場合には、「音楽祭自体には特別な思い入れはなかったが、街おこしの材料になる、ネットワークを拡

\*<sup>8</sup> 前掲の「文化行政とボランティアに関する調査報告書」によれば、美術館ボランティア活動を始めた動機は「美術に興味があったから」(69%)、「自分の勉強になる」(54%)が上位を占め、「社会に役立ちたい」(33%)、「時間に余裕ができた」(16%)と続いている。

## I. 公共ホール・劇場におけるボランティアの導入状況と実態

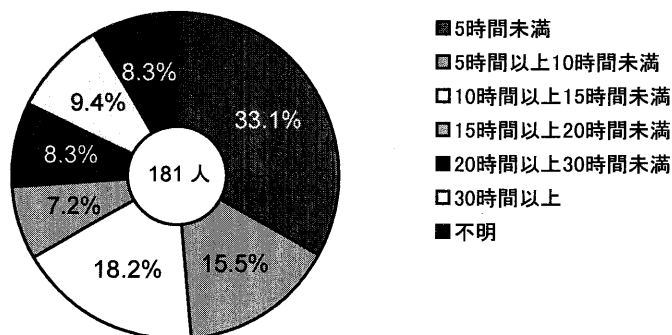
大できる、あるいは子供達の感性の育成につながるなど、派生的な要素に可能性を感じた」という意見も聞かれ、“地域をどうにかしたい”という視点でボランティア活動の意義を見出して参加している人もいる。

### ② ボランティア活動の頻度

活動の頻度は、ボランティアの位置づけ、業務の内容や個々人の関わりかたなどによってまちまちであるが、アンケート調査からみた平均は月間11時間半という結果が出ている。

- ・「武生国際音楽祭推進会議」や「プラネットステーション」のように、フェスティバルなど短期間に業務が集中する場合には、月間30～40時間などというケースも珍しくないようである。プラネットステーションの平均活動時間は月間25時間弱で、7事例の中でもっとも多い。「イベント開催中はほぼ毎日、何もなくても週1回は顔を出す」という声もあった。

■ 図表 I -15 ボランティア活動に従事する時間(月間)



- ・「たんば田園交響ホール」のように、登録されているスタッフ数が多い場合には、一人当たりの活動時間はそれほど多くない。「たんば」のステージオペレーターは90名近くが登録されており、年間平均出役日数は約8日。ボランティア全体でも41.4%が「月間5時間未満」と回答している。
- ・また、「喜多方プラザ文化センター」や「いまだて芸術館」のウラ方スタッフなど、技術を必要とする業務では、活動の頻度によって技術面に格差が出てしまい、技術を取得している人は実際に公演を手伝う機会も増え、更に活動頻度の格差が広がるという点も指摘されている。

実際の業務以外に、研修会・勉強会・懇親会などに要している時間は、平均で5.6時間程度。各ボランティアが個別に活動をしているため、月1～2回程度の「月例会」などを設けて、相互のコミュニケーションを図っているようである。

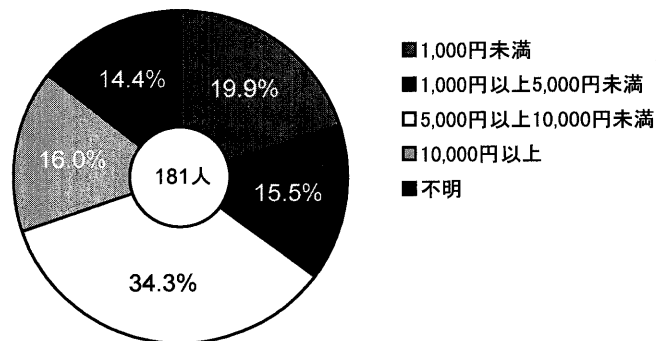
活動が部門別、企画別になっている事例では、各々のグループの代表同士(音響・照明部長、企画プロデューサーなど)は更に頻繁に集まって進捗状況の報告や調整を行っている。

### ③ ボランティアの自己負担

アンケート結果からみたボランティアの年間自己負担金は、「5,000円以上10,000円未満」が34.3%と最も多く、「1,000円未満」が19.0%と次に続く。

- 若年層が中心の「春日市ふれあい文化センター」では、42.9%が「1,000円未満」と回答しており、自己負担の少ない事例といえる。一方、同じ青少年対象の「大阪府立青少年会館・プラネットステーション」では「1,000円以上5,000円未満」(25.0%)、「5,000円以上10,000円未満」(37.5%)が多数を占めている。
- 「武生国際音楽祭」では、「5,000円以上10,000円未満」が38.7%、「10,000円以上」が25.8%となっており、高額負担者が最も多い。「同推進会議」のうち、特に理事の重要な役割は資金調達で、自ら年間20万～50万円を拠出している人も珍しくない。「理事の最大の責任は赤字の負担。年会費の他に、アーティストや関係者の接待、チケットの販売、協賛金集め(広告10万円/1ページ)を行ない、自らも協賛金を出す」という活動で、費用負担もさることながら、それに要する時間も相当なものであろう。

■ 図表 I-16 ボランティアの自己負担金



### ④ 満足度

ボランティア活動に対する満足度を「ボランティア活動をして良かったと感じる点」の設問で聞いた結果が、下記のグラフである。

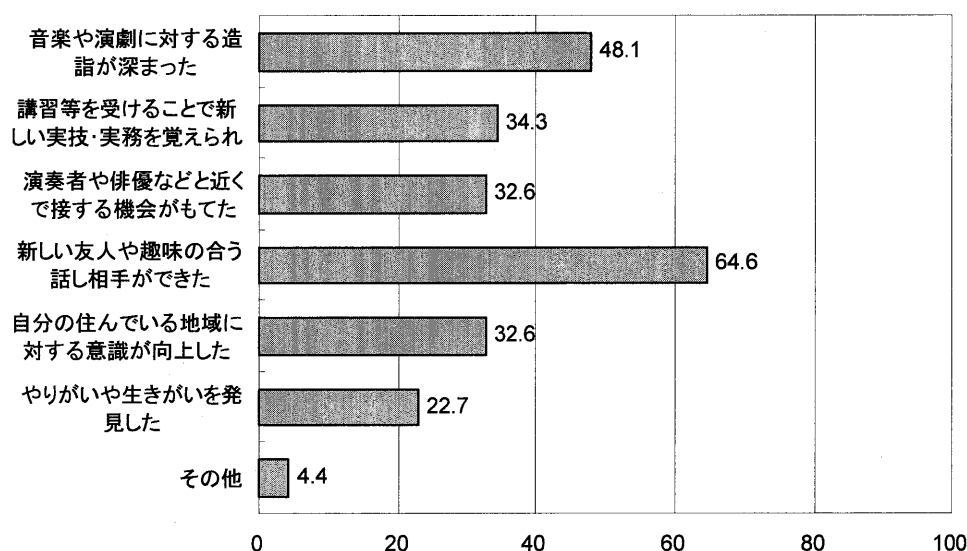
全体の64.6%が「新しい友人や趣味のあう話し相手ができる」ことを良かった点にあげている。活動を始める時点では、「音楽や演劇が好きだから」あるいは「劇場・ホールの仕事に興味を持って」が主な動機だったが、実際に活動をはじめた時点では、関心事を同じくする友人・知人との出会いが満足感・充足感を感じる大きな要因になっている。

インタビュー調査でも、それまでの経験や年齢、職場環境などが全く異なる新しい人との出会いを「満足している」としている人は多く、企画・制作系のボランティアでは、「これまで個人でしてきた活動の範囲が広がった」、「この活動をしていなか

## I. 公共ホール・劇場におけるボランティアの導入状況と実態

ったら、出会っていない人、やっていないことは仕事の何十倍もある」あるいは「“やればできる”と思えるようになったし、ネットワークの重要さも学んだ。自分個人では全く不可能なことが、その組織では可能になるのは素晴らしい」などの意見が聞かれた。

■ 図表 1-17 ボランティア活動をして良かったと感じている点(〇は3つまで)



同じように、「音楽や演劇に対する造詣が深まった」点を評価している人も48.1%いる。「プラネット・ステーション」のように、音楽・演劇以外の分野の活動も行っているケースでは、「芝居がしたいと思って来たが、美術や音楽など他の分野に関する知識も得るようになり、興味をもつ範囲が広がって面白くなった」という感想も聞かれた。

また、ウラ方系のボランティアをしているところでは、「実技・実務を覚えられた」点が評価されており、全体で34.3%という数字が出ている。ウラ方に特化している「舞台研究会(喜多方プラザ文化センター)」では62.5%、「ステージオペレータークラブ(たんば田園交響ホール)」では51.4%が、技術的向上を良かった点にあげている。

### (3) ボランティア運営における課題

最後に、ボランティアの運営における問題点や課題を整理してみたい。

#### ① 劇場・ホール側からみた問題点・課題

##### ● ボランティアの位置づけとメンバーの意識

- ・ボランティア参加者の“意識”が必ずしも統一されていない面があり、プロフェッショナルとアマチュアの間領域に位置している。ウラ方業務のように危険